

会 議 概 要

会議の名称	第3回 湧別町庁舎等検討委員会（基本計画）
開催日時	令和6年2月20日（火） 18時00分 開会 20時10分 閉会
開催場所	上湧別コミュニティセンター 2階大会議室
出席者名	委員：高橋直司委員、岩佐雅弘委員、八巻武則委員、 菊地厚委員、森義文委員、柴田洋幸委員、北村茂委員、 篠田悟委員、宮澤道委員、角矢賢矩委員 町：北林建設課長、細川建設課参事、建設課 宇佐美主幹、 藤主幹 事務局：石塚総務課長、中川主幹、榎本主事
欠席者名	無し
傍聴人の数	2名（その他報道機関2名）
会議の内容	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議題 4 その他 5 閉会
会議資料	別紙のとおり
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
備考	

会議録

結果要旨

(1) 開 会

(2) 委員長あいさつ

(3) 議題（説明：中川主幹）

①第1回及び第2回庁舎等検討委員会（基本計画）開催結果の確認について

※管内庁舎視察の感想等

○来庁者への動線が配慮されており、町民にとって分かりやすい庁舎であった。職員にとっては仕事をしやすそうな環境であった。

○両町とも60年以上使った古い庁舎で、庁舎の規模や機能等を長い期間をかけてじっくり準備・検討して、皆さんの意見を聞いて建設したものなのだとよく分かった。また、ZEBReadyの説明を受け感銘を受けた。

○町民の方々が多く訪れていたが、滞ることなくスムーズに作業されているところが分かった。

○基本構想の検討委員は、予算があったにも関わらず視察に行かなかったのは本当に残念であった。やはり、庁舎建設にあたっては、その経緯・経過を視察する、しないで結論が変わってきたと感じ、早まったことにはならなかったのではと感じた。

②新庁舎建設等基本計画の審議について

※各項目における意見等

【第3章 庁舎整備に必要な機能及び機能】

1. 庁舎整備の必要機能

(1) 町民サービス向上につながる庁舎

①窓口サービス機能

○書かない窓口の実現をお願いしたい。

→事務局) 書かない窓口の整備については、これから審議する令和6年度予算において関連予算を計上している。予算が議決され事業が実施された場合、住民票、戸籍謄本及び印鑑証明書の発行時に最低限の記入で良くなる予定。

③利便機能

○私の職場の若手職員に新庁舎の機能について何を希望するか聞いたところ、独自の職員を中心としてコインランドリーを希望するという意見が多く出た。また、ホタテを運搬する長距離トラックの運転手からもそのような意見を聞いている。町民の生活や交流人口の方々の環境を豊かにするものとして、民業圧迫をしない

ならば、あれば良い。その他、宅配 BOX を希望する声があった。最近、道の駅や官公庁関係で宅配 BOX を置いているところが増えている。

→事務局) 庁舎にその様な設備があると利便性が高まると思うが、整備する庁舎にいれるべきなのか、それとも既存の公共施設に整備した方が利便性は高まるのか、費用面等を考慮して検討していきたい。

○コインランドリーなどがあることで、他の設備やスペースの活用にも繋がると思うので、設備単体で考えるのではなく、総合的に考えていく必要がある。

(2) 防災の拠点となる安心安全の庁舎

②防災拠点としてふさわしい構造

○ハザードマップと照らし合わせ、中湧別小学校に対する津波と洪水の影響は。
→事務局) 洪水については、1,000年に1度の大雨が降った際は、湧別川の堤防が決壊したことにより50cm～3mの範囲で浸水が想定されている。最大3mとなっているが、堤防が決壊する場所によって浸水する高さが変わってくる。仮に対策本部を設置している庁舎が浸水した場合であっても機能するよう、自家発電機やサーバーなどは2階以上のところに設置することを検討している。

津波については、湧別漁港から湧別総合体育館付近の2号線までを要避難ラインとしており、その区域の方々については避難が必要となってくる。このことから、その要避難ラインの区域に入っていない中湧別小学校については、津波による影響はない。

④防災備蓄庫

○「避難所運営資機材を常備しておくための防災備蓄倉庫を、改修を行う中湧別小学校へ設置することを検討します。」と謳っているが、洪水による浸水を想定して、どこにどのように設置するのか謳った方がよいのではないかと。

→事務局) 2階に備蓄庫の整備を検討するなど上層階に整備する文言とする。

○庁舎の機能を維持する機器や備蓄倉庫等を2階に整備した場合、浸水時にそれらの機器等は問題ないが、避難所に避難してくる人はその建物に辿り着けないということですね。機器や備蓄倉庫等を2階に整備したとしても、被災している所を避難所とするわけにはいかないと思うが、そこはどのように考えているか。
→事務局) 被災している所は、もちろん避難場所にするわけにはいかない。しかしながら、災害対策本部は、対策を実施していかなければならないので設置しなければならない。

○避難所にならないけれども、対策本部の職員は被災している中であっても庁舎に参集するということですね。被災している対策本部から町民に対して避難の指示をするということですね。

→事務局) 洪水を想定した場合、急に洪水が発生するのではなく、雨が降り続け

た結果、洪水が発生すると思うが、洪水が発生する恐れがある場合は、町職員は予め庁舎内に待機している。

○ここ最近の豪雨は、本当に驚くほど突然にやってきて突然氾濫している。1,000年に1度の大雨を想定しているとのことだが、1,000年に1度や100年に1度の大雨はいつやってきてもおかしくはないという時代になっている。庁舎の機能維持などの機器を2階に設置し、浸水時は問題ないが、私達はどこに逃げるということに関して、役場機能は問題なくてもそこから発信する機能は災害になっていてできないわけではないですか。そういう危険があるという所に建てるということが最初からおかしいのではないか。

→事務局) 建設地について、災害の影響が一切ないという場所を選定するのは難しい。町民に対する指示については、防災スピーカーを町内に設置し対策を講じている。

○防災スピーカーについて、北海道の家は気密性が高く毎日午後5時に流れている愛の鐘は聞こえない。ましてや風雨の中、家の窓を開けて防災スピーカーを聞く人はいるのだろうか。

→事務局) 庁舎と防災を切り離れたうえで、本町では地域防災計画を策定しており、災害時は防災計画に基づいて対応していく。基本的に警報が発令された時点で防災担当の職員及び担当課長は庁舎に参集することとなっている。また、天候が悪化する恐れがある場合は、気象台から事前に情報提供があることから、その情報等をもとに予め体制を整えるようにしている。

防災に係る連絡手段については、防災スピーカーのほか、防災メール、防災LINE、町公式ホームページといった複数の手段で周知を図れる体制を整えている。なお、防災スピーカーについては、屋外にいる方々を対象としたものとなっている。

○防災メールの普及率は。

→事務局) 1,800人程度となっており、普及に向けてかわらばんで周知を図っている。近年、メールに代わりLINEの普及率が高まっている様子であったため、防災LINEの運用を開始し、LINEでも防災情報の発信を行う体制を整備した。こちらは現在、1,000人弱が登録しているが、登録数の増加に向けて、他の施策と連携して普及を図りたいと考えている。

(3) 町民サービスの向上につながる働きやすい執務空間

②会議室・打合せスペース

○「庁舎の機能を補完するため、改修を行う中湧別小学校に会議室を設けることを検討します。」と謳われているが、庁舎のスペースを確保するためというのは理解できるが、わざわざ庁舎から出て会議室に行くというのは、職員の利便性についてはどのように考えているか。

→事務局) 新築庁舎にも最低限の会議室を整備する予定。ただし、不足する部分

については中湧別小学校に整備することを想定している。

○新築庁舎と中湧別小学校は渡り廊下で繋げる予定なのか。事前に配布された資料では新築庁舎と中湧別小学校の位置関係が想像できない。

→事務局) 新築庁舎の建設場所は、おおよその場所では示すことしかできない。渡り廊下で繋ぐかどうかというのは現時点では決まっていない。ご意見としていただければ検討していきたい。

(4) 町民に開かれた議会機能

①町民に開かれた議会

○津別町と美幌町の庁舎を視察したうえで、対面タイプが良いと考える。議場の使用状況はどのようになっているか。

→事務局) 使用状況について、議場は本会議と全員協議会で使用しているが、令和4年は14日間、令和5年は18日間使用している

○議場はこれまでみたい立派なものではなく、また、汎用性のあるものが良い。

○議会中継について、現在は庁舎内や TOM で放送されているが、その他の手段で放送はされているのか。

→事務局) 現在は庁舎内等のみで、インターネット等を介して外部への放送はしていない。

○議会中継の環境整備については既に記載されているが、開かれた議会を目指すのならば、インターネットでの発信は是非とも実施していただきたい。

(6) 省エネルギー・環境負荷低減を考慮した庁舎

②ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) 化の検討

○ZEB 化について「検討」となっているが、必ず実施するのか、もしくはやらないこともあるのか、どちらか。

→事務局) 現時点で必ず実施するとは言い切れない。現在、脱炭素に向けた取り組みが推進されており、また、本町はゼロカーボンシティ宣言を控えていることなどを鑑みると前向きに検討しなければならないと考えている。

○美幌町役場を視察した際に ZEBReady の取り組みの説明を受け、非常に良いものだと感じた。その様な取り組みを町が率先して導入して欲しいので、検討ではなくもっと前向きな文言にしていきたい。その他、中湧別小学校は改修して ZEB 化するのか。

→事務局) 現段階では「検討する」が適切かと考えている。中湧別小学校の ZEB 化は目指したいところだが、新築で建設する際に ZEB 化するものとは違い、相当の費用がかかると聞いており費用対効果を勘案して判断していきたい。美幌町では ZEB の導入費用は 25 年で回収される見込みとのこと。

○遠軽町の基本計画 (p. 59) では、10 年で回収される見込みとなっている。

○美幌町は、ZEB の導入に向けて町長を筆頭に導入の機運を醸成していったと説明を受けた。新築庁舎への導入に向けては町職員の皆様は対町民への説明に向けて知識を深めて欲しい。

→事務局) 美幌町は庁舎の建て替え前に別の公共施設でヒートポンプを採用した経緯があったことから、庁舎の建て替えでもスムーズに導入が決まとのこと。本町では初めての取り組みになることから、これまで ZEB を導入している庁舎の視察を行っているところだが、引き続き ZEB の情報収集に努めたい。

(7) ユニバーサルデザイン機能

②案内機能

○庁舎内の案内表示は、壁だけでなく空間、特に床には何もないため、その辺を上手く活用しながら優しい環境にしていきたい。

○案内表示については、幅広い年代の方々の視線の高さを意識することや、町民が分かりやすい言葉を意識しながら検討していく必要があると感じる。

(9) 防犯、セキュリティ

○全般

○ハッカー対策などは考慮しているか。

→事務局) 現在は有線の回線を業務用のものとそれ以外のものに完全に分けていることから、業務用のものに影響を与えられる想定はしていない。現在はセキュリティ対策が向上していることから、新築庁舎では無線 LAN の導入も検討していきたい。

(10) 木材の利用促進、湧別町らしさを感じさせる庁舎

②湧別町らしさを感じさせる庁舎

○町では町有林という財産を持っているので、すべて RC 造にするのではなく、柔らかみを感じる木材を有効利用してもらいたい。

【第4章新庁舎整備の比較】

2. 中湧別小学校改修整備の必要規模

○中湧別小学校改修整備の必要な機能について、様々な機能を持たせる予定となっているが、今後の世代の負担を軽減するためには必要最低限の部分だけ活用する方が良いと考える。これらの機能を持たせるために中湧別小学校全体を活用するのか、それとも一部だけ活用し、それ以外は取り壊す予定なのか

→事務局) 現時点では中湧別小学校全体を活用する予定。

○中湧別小学校に保健福祉センターが入る予定とのことだが、社会福祉協議会は入らないのか。視察先では庁舎内にそれぞれ保健センターと社会福祉協議会が入

っていた。遠軽町の基本計画を参考にとということで渡されて、確認したところ、げんき 21 に事務所がある遠軽町の社会福祉協議会については検討しているということが記載されていたが、本町の基本計画については社会福祉協議会の取り扱いについて記載されていないがどうなるのか。

→事務局) 現時点では新築庁舎または中湧別小学校に社会福祉協議会が入る予定はない。

○色々な機能を集約するためにやりましょうという話で、分散しているところを一つにまとめて機能的にするために我々が検討していると理解している。介護のことについては福祉課に行った際、介護ヘルパーのいる社会福祉協議会へワンストップでいけるのは利便性が高い。

→事務局) 庁舎内に社会福祉協議会を設置している自治体は、高齢者包括支援センターを社会福祉協議会内に設置しているところが多く見受けられ、その点で関連性の高い福祉課の近くにあると便利である。本町は、高齢者包括支援センターは福祉課に設置している。町民サービスの関係で福祉課と高齢者包括支援センター間のやり取りがどれぐらいあるか把握しなければならない。社会福祉協議会の事務所の移転については、先方の意向もあることで本町が一方的に決めることはできないが、公共施設再配置計画の実施に併せて先方と相談し、検討していかなければならない。

○その他

○中湧別小学校の維持管理について、冷暖房は一括管理か、それとも個別管理か。
→事務局) 中湧別小学校の暖房は、体育館はボイラーで、それ以外はFF式の灯油ストーブを暖房として使用している。なお、冷房は、保健室とコンピューター教室のみの整備に留めていることから空調関係は整備しなければならない。整備にあたっては維持管理費の削減に向け個別管理ができるような設備を検討していかなければならない。

○自治会連合会で道内の自治体へ防災対策の視察に行った際、体育館の壁に緊急時に救急用として使用するベッドを収納している設備を整備している事例があり、便利だと感じた。

○将来世代に負の遺産を残さないため、天井の高さを持たせるなどといった見目を重視するような無駄は不要で、必要最低限の機能を持たせた庁舎にしてほしい。

3. 全体の必要規模

○全体の必要規模について、湧別庁舎等集約化基本構想概要版(8. 新築庁舎の規模・概算工事費)で既存校舎の改修工事の延床面積は3,200平米だが、本日配布された資料(3. 全体の必要規模の校舎部分)は3,900平米と700平米も増えている。

るが、この根拠は何か。

→事務局) この700平米については、改修を行わない体育館の部分です。

○各機能に必要な面積が示されていないが、示されるのか。

→事務局) 今後、おおよその面積をお示しする予定。

(4) その他

①次回会議日程について

次回の日程は改めて調整のうえ通知することとした。